

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式
EU41E105	学校経営課題研究 (Action Research of School Management)					省察科目	
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員	
選択必修	4	2	教育学研究科	通年		氏名 清國祐二, 熊丸真太郎, 大島崇, 山本遼, 清松今朝見, 佐藤由美子, 渡邊英樹 E-mail oshima@oita-u.ac.jp 内線 6132	
授業の概要	第1～6回では学校改善企画書の検討を行う。第7～30回では自ら設定したプロジェクトの省察を行う。定期的に学生全体での経過報告会を開き、学生がプレゼンテーションを行うとともに、教員が質疑応答を行う。						
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10
目標1	自ら設定したプロジェクトの枠組みに応じて学校改善に資する取組(学校改善企画)を企画できる。						
目標2	学校改善企画を実施できる。						
目標3	学校改善企画の実施の結果に基づき省察を行うことができる。						
目標4	学校改善企画の実施の結果の省察に基づき成果や課題を明確化できる。						
目標5							
目標6							
目標7							
目標8							
目標9							
目標10							
授業の内容							
1	学校改善企画書の検討(1-1)						
2	学校改善企画書の検討(1-2)						
3	学校改善企画書の検討(2-1)						
4	学校改善企画書の検討(2-2)						
5	学校改善企画書の検討(3-1)						
6	学校改善企画書の検討(3-2)						
7	プロジェクトの省察(1-1)						
8	プロジェクトの省察(1-2)						
9	プロジェクトの省察(2-1)						
10	プロジェクトの省察(2-2)						
11	プロジェクトの省察(3-1)						
12	プロジェクトの省察(3-2)						
13	経過報告会1-1						
14	経過報告会1-2						
15	プロジェクトの省察(4-1)						
16	プロジェクトの省察(4-2)						
17	プロジェクトの省察(5-1)						
18	プロジェクトの省察(5-2)						
19	プロジェクトの省察(6-1)						
20	プロジェクトの省察(6-2)						
21	経過報告会2-1						
22	経過報告会2-2						
23	プロジェクトの省察(7-1)						
24	プロジェクトの省察(7-2)						
25	プロジェクトの省察(8-1)						
26	プロジェクトの省察(8-2)						
27	プロジェクトの省察(9-1)						
28	プロジェクトの省察(9-1)						
29	最終報告会1						
30	最終報告会2						
ラーニング	A:知識の定着・確認	プレゼンテーション, ディスカッション(ガイド付き・フリー)				工夫	その他の
	B:意見の表現・交換						
	C:応用志向						
	D:知識の活用・創造						
時間外学習の内容と時間の目安	準備	実践レポート作成, プレゼン準備(20h)					
	事後	実践レポート修正(10h)					
教科書	必要な資料は授業中に配布する。						
参考書	授業中に指示する。						

成績 評価 の 方法 及 び 評 価 割 合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10	
		経過報告会での発表内容	20%										
		経過報告会での質疑応答	20%										
		最終報告会での発表内容	30%										
		最終報告会での質疑応答	30%										
注意事項													
備考													
リンク	URL												
担当教員の 実務経験の 有無													
教員の実務 経験	清國祐二（高等学校教員），清松今朝見(小学校校長・教育行政)，佐藤由美子(小・中学校校長・教育行政)，渡邊英樹（中学校校長・教育行政）												
実務経験を いかした教 育内容	学校現場や教育行政現場での実務経験をもとに，学校経営全般に係る指導を行う												